



教育目標 ◎自分で深く考える子 ◎思いやりをもって助け合う子 ◎がんばってやりとげる子

佐々木小

令和7年7月11日
新発田市立佐々木小学校
学校だより 第8号

～一人一人が輝き、幸せな学校～



6年生修学旅行 北沢浮遊選鉱場にて

毎日を思い出に！

さわやかで清々しい1枚の写真！6年生の修学旅行のワンショットです。6年生の子どもたちは、この修学旅行でたくさんの思い出を心の中に焼き付けたことでしょう。

運動会、修学旅行と大きな行事を経験する毎に、子どもたちは成長と共に素敵な小学校生活の思い出を心の中に刻んでいます。

6年生だけではなく、この1学期、全校児童みんな、学校生活の中で素敵な思い出に残るような経験をたくさんしたはずです。子どもたちの心のアルバムに、1学期の思い出のページがきっと1枚増えたことでしょう！

備 え

校長 金平 弘之郎

最近、トカラ列島で群発地震が起こり、そのニュースが絶えません。早く収まって、そこに住んでいる方々が安心して日常生活に戻れることを願っています。そして、SNSを中心に「大災害（大災難）が来る」という予言が話題になりました。予言が当たるの、当たらないのと、人々の関心が高まりました。自然現象の予知は非常に難しいものです。群発地震がいつ収まるのか、大災害がいつ来るのかなんて正直分からないことでしょう。災害に対する確実な予知ができれば、あらかじめ対策や退避が可能で被害を最小限に押さえられるはずです。でも、それは今の科学では現実的ではないような気がします。

14年前、起こった東日本大震災のことです。中越地震と同様、これまで感じたことのないような大きな揺れに突然見舞われたことは、多くの方の記憶に残っていることでしょう。

当時、私が勤めていた学校でも、その想定を超える揺れが続くという事態に直面することになりました。その日は、校長が遠方に出張で不在であったため、教頭の指揮の下、一次避難を無事完了しました。しかし、定期的に避難訓練は行っていたのですが、電話が繋がらない、情報が入らない状況も重なり、職員の中に、これからどうすればいいのかと不安と混乱が見られるようになりました。幸いなことに、その頃、校長が戻ってきて、冷静に指揮を執り、動揺していた組織を立て直し、子どもたち全員を無事保護者に引き渡すことができました。

当時の私は、その状況下で冷静さを振る舞いながら、不安な気持ちも抱えていました。一体いつまでこうやっていなければならないのだろうと。そんな姿を見透かされたのでしょうか。戻ってきた校長に呼ばれ、「自分たちは、子どもたちの命を守るために今できる最大限のことをしている。自分たちのしている対応に自信と誇りをもって集中してほしい！子どもたちに不安を与えてはいけない！」と叱責されました。真っ当すぎて返す言葉もありませんでした。あらかじめ、想定外の災害がきても対応できる心構えや知識を日頃から身に付けていればよかったと、とても落胆したことを今でも憶えています。

災害は突然やってきます。その時、私たち大人は、今一番に守るべきものは何か、どうすればそれを守れるのか、即座に判断し、行動しなければなりません。もちろん守るべきは命です。でも状況が状況です。急に冷静な判断や行動ができないことも考えられます。そんな時のために、常日頃から危機感をもって、いざというときの判断や行動を身に付け、備えておくことが大切です。

学校では、毎学期、避難訓練を行い、子どもたちに緊急時の避難の仕方を身に付けさせています。4年生は防災キャンプに参加しました。今月の20日には佐々木地区防災訓練、8月16日には育成会が計画した「防災フェスティバル」も開催されます。ぜひ多くの皆様から参加していただきたいと思います。予知は難しくても、地域をあげて常日頃から備えを十分にして、災害から命を守ることができるようにしていきましょう。

間もなく夏休みに入ります。ぜひご家庭でも、防災のこと、交通事故や水の事故など、自分の命を守ることに、お子さんとじっくり話し合ってみてください。

